

# 保健研究部

大阪市立幼稚園51園の養護教諭で構成している研究組織です。子どもたちの健やかな成長を願い、討議会や情報交換を通して資質向上に努めています

令和6・7年度 研究主題

生命(いのち)の安全教育を通して、自分の体に関心を持ち  
大切にしようとする心を育む

## ★幼児期における生命(いのち)の安全教育についての講演会を開催しました★

生命の安全教育の幼児を対象とした取組について学び、生命(いのち)の安全教育について知識を深め、今後の実践に生かすために、助産師による、幼児期における生命(いのち)の安全教育についての講演会を実施しました。

### 演題「生命(いのち)の安全教育をもっと身近に」

#### 講演内容

#### 1. プライベートパーツ

- 子どもにプライベートパーツについて伝えるとき、「自分だけの大切な場所」「自分は触ってもいいが触っているところは他の人には見せない」「プライベートパーツ以外の自分の体も大切」「嫌だと思う気持ちは自分が決めていい」「嫌だと思ったら信用できる大人に相談する」の5つのポイントをおさえることが大切である。
- 更衣の際に男女を分けたり、トイレを男児と女児を別々に行かせたりするなど、幼稚園生活の中でも、子どものプライベートパーツを守るような環境の工夫をすることが必要である。

#### 2. プライベートパーツ以外の自分の体も大切

- 自分の体は自分のものなので、誰がどこを触れてもいいのか、ダメなのかは自分が決めていい。同様に、相手の体は相手のものなので、どこを触れてもいいのか、ダメなのかは相手が決めることで、相手以外は決めることができない。
- 相手の体に触れるときは触ってもいいか確認することが大切で、これを「同意をとる」と言い、同意をとることは、相手の体と心を尊重することにつながるということや、自分の気持ちと相手の気持ちは一緒ではないこともきちんと伝えるべきである。

#### 3. 性被害に遭った子どもへの対応

- 被害者を守る、被害に遭ったことを責めないことが大前提である。自分が悪い、恥ずかしいなど、子どもでも性被害は相談しにくいので、相談を受けたときは「話してくれてありがとう」という気持ちを伝えたり、話してくれたことを褒めたり、話をきちんと聞いたりする(否定しない。ありのままを受け止める)ことが大切である。その際、嫌な思いをより濃くしてしまい、傷を深くする可能性もあるので、根掘り葉掘り聞かないように気を付けなければならない。



## 講演会から学んだこと・感じたこと



- 今回の研修で、プライベートパーツに関して幼稚園でよくある事例から子どもへの伝え方や対応の仕方を学ぶことができた。「こんなときどう伝えればいいのか」と悩むこともあったので、今回教えていただいたことを指導に生かしていきたいと思った。
- 生命（いのち）の安全教育はデリケートな内容や伝え方に迷うことも多いが、子どもの「なんでなん？」という気持ちに寄り添いながら、子どもと一緒に考えていけるような指導の工夫をしていきたいと思った。
- 自分の体を大事にすることは、自分を大事にすることであり、周りの人も大事にするということを幼児期から教えることの大切さを改めて学び、考えることができた。
- 「自分の体は自分のもの、相手の体は相手のもの」で、自分の体に触れていいのは自分が決める、相手の体に触れていいのは相手が決めるという内容がとても分かりやすかった。また、嫌なときに「嫌だ」と言うことが自分を大切にすることと、相手が「嫌だ」と言ったときにやめることが相手を大切にすることだということを子どもたちにしっかり伝えていきたい。
- 生命（いのち）の安全教育は、養護教諭だけが行うのではなく、教職員や保護者にも協力してもらい、連携しながら、園全体で行うことが大切だということを改めて知ることができた。講演会の内容を教職員や保護者と共有していきたい。
- もし、子どもが性被害にあったときに、養護教諭として保護者以外に子どもが打ち明けやすいような存在でありたいと強く思った。また、その時に適切な対応ができるように、これからも生命（いのち）の安全教育について学び続けていきたい。

学んだことを保護者講話や保健だよりなどで情報発信しました。  
これからも、生命（いのち）の安全教育について、取り組んでいきたいと思います。

